一般財団法人
日本チェロ協会
JAPAN CELLO SOCIETY

日本チェロ協会会報 第60号 2022年12月19日発行

JCS NEWS

vol. 60

CONTENTS

第6回ジュニア・チェロ・キャンプ開催報告 2-3
マスタークラス開催報告 4
チェロ・サロン開催報告 5
チェロの日 Promotion
事業委員会よりご挨拶 6-7
メンバーズ 8
事務局からのお知らせ
編集後記

ジュニア・チェロ・キャンプ 開催報告

Alain Meunier マスタークラス 開催報告

25th Anniversary

Junior Cello Camp

第6回 ジュニア・チェロ・キャンプ

Photo by 坂中 雄紀

ご指導いただいた先生／参加者人数

■ソロ演奏コース／11名
河野 文昭 先生、堤 剛 先生、
堀 了介 先生、山崎 伸子 先生、
鳥羽 亜矢子 先生、諸田 由里子 先生（ピアニスト）

■アドバンスト・アンサンブルコース／15名
山本 祐ノ介 先生、山本 裕康 先生
小粥 麻莉菜さん（アシスタント）

■ビギナーズ・アンサンブルコース／6名
中島 顕 先生
田中 愛 先生（アシスタント）

令和4年9月24日(土)、25日(日)に桐朋学園大学調布キャンパス(東京都調布市)にて、第6回ジュニア・チェロ・キャンプ(以下JCC)を開催いたしました。皆さまのお力添えもあり、おかげさまで、今年は約3年ぶりにアンサンブルコースを含む全3コースで実施することが叶いました。開催日前夜から台風15号が直撃したこともあり、一部の方の交通に影響が出ましたが、無事に予定していた参加者全員が集い、開催できたことは大変幸運なことでした。

JCC会期中は、初日にアカデミー、2日目にアカデミー、リハーサル、発表会を実施し、会終了後に30分程度の懇親の時間を設けました。

今回も全国各地から32名の小・中学生にご参加頂きました。昨年は中止だった為、大勢の方から「開催を心待ちにしていた」という声を聴き、大変嬉しく思います。会期中は、チェロ仲間に会える喜びや、何よりアンサンブルができる楽しさを再確認する時間となったようで、マスク越しではありましたが、沢山の笑顔を拝見することができました。

発表会中盤では、理事の菊地知也さんと長谷川陽子さんがかけつけて下さり、サン＝サーンスの《白鳥》をご演奏頂きました。参加者から「間近で聴けてとても感動した」、「音のハーモニーがとても綺麗だった」、「サプライズ演奏に感謝している」等のご感想を頂きました。

短い時間の中で、真剣にチェロと向かい合い、熱心に見聞きして吸収し、発表会の場でその成果を披露する。参加者の表情は会期前後で随分と変わっていったように感じられました。また、例年参加下さる方の成長を、チェロを通じて見守ることができることは、大変貴重なことと思っております。来年も開催できることを願いつつ、ジュニア・チェロ・キャンプの和が広がっていくことを心よりお祈りしています。

この度もご協力頂きました桐朋学園大学の皆さまには、深く御礼を申し上げます。

VOICE

S-196 岸田 晄輔

先生方、スタッフの皆さま、沢山の準備とご配慮をありがとうございました。とても楽しく、あっという間の2日間でした。

まず、僕はアドバンストアンサンブルコースでディベルティメントを演奏しましたが、少し緊張してしまい、なかなか本来のチェロを楽しんでいる自分が出せなかったと思いました。でもキャベッジダウンの時は、山本先生が笑って～と言ってくれたので嬉しくなり、安心して弾くことが出来ました。本当に楽しかったです。また一番前での演奏は、会場全体を見渡すことができて、とても景色が良く気持ちがよかったです。

それから、僕は全体合奏が一番印象に残っています。なぜかというと、一人一人の音色は違うのですが、それが重なって虹のように一つの音・形になっているということが強く感じられたからです。一人で弾いていたら体験できないことだったので、皆で弾くのはいいなと思いました。

また菊地先生や長谷川先生の演奏がとても面白かったです。まるでサンサーンスとバッハが語り合っているようでした。あのようにいつか少人数アンサンブルなども挑戦できたらいいなと思いました。また参加させてもらえたら嬉しいです。

ありがとうございました。

参加者の声

- いつも先生に言われていることを違った言葉で指摘してもらい、自分の弱点が分かった。フレーズとフレーズの繋ぎが大切だと思った。丁寧に考えて弾こうと思った。
- レッスンで教えて頂いた姿勢を気を付けることに必死でしたが楽しく弾けました。アンサンブルは先生方も弾いてくれて周りからすごく良い音が聴こえてきました。
- 作曲家の歴史等をお話しされ、とてもためになりました。今弾いてる曲の時代背景など知ることは大切だと感じました。知識、想像、イメージを膨らませ、感情豊かに演奏していく学びがありました。
- 奏法だけでなく、内面的なところまで教えて下さり、とても感動しました。
- 新たな課題が見つかったので、それができるように、自分に負けないよう頑張りたいです。
- 他の人のレッスンを聴講して改めて自分のイメージすることや、ビブラートの多様性が足りないのが他の人と自分とを比べてよく分かりました。

堤先生より（閉講式）

昨日もお話させて頂きましたが、今回大変多くの参加者、保護者の皆様にいらして頂きまして、私共大変嬉しく思っております。

特に今回私が感じたのは、大変レベルが上がったなということです。先程の演奏を聴きながら涙が浮かんで参りまして、数年前に山崎先生がやはり開催出来た喜びで涙された場面を思い出しました。若い方が素晴らしい演奏をして下さると本当に嬉しく思います。

加えて、昨日大変な大雨でしたが、今日は大変良いお天気になり、これはやはりチェロの将来が輝かしいことを表しているのではないか、という気が致しました。

今回も講師陣、そしてピアニストの方々に助けて頂き、大変有難く思っております。

この活動を、これから先も『続けていく』という事が大事なことだと思いますし、チェロ協会の一つの使命は、私共が経験し、学んできた様々なことを、次の世代、若い方に繋ぎ、より素晴らしいチェロの演奏、より素晴らしい音楽芸術の世界になる手助けをすることだと思っております。そして、おこがましいですが、中長期的には世界平和にも通じるのではないか、と思っております。そのような意味においても、パブロ・カザルス先生、ロストロポーヴィチ先生、そしてヨーヨーマ先生のようなチェリストの方々は、楽しさ、美しさを追求しつつ、より豊かなで平和な世界を目指し積極的に取り組んできた歴史に想いを馳せました。

私事になりますが、先日私の80歳の記念コンサートがありました。

初めてチェロの音楽会にいらした方に、『最初、「チェロ・オーケストラ」と書いてあり、何が起こるか見当がつかずにいると、そのうち50人程のチェリストが舞台上に出てきて、音が出始めた時、その素晴らしさに感動した』と感想を頂きました。

今日の皆さまのアンサンブルを聴き、同じよう感じて頂いたのではないかなと思います。

私共はチェロを通じてですが、少しでも世の中が明るく、素晴らしくなり、我々の人生が豊かになるように貢献していきたいと思っています。

これからもどうぞよろしくお願い致します。

今日は本当にありがとうございました。

山崎先生より（閉講式）

本日はこの発表会にふさわしいとても良いお天気になり、本当に嬉しく思いました。

今日も本当に楽しく聴かせていただきました。2年連続でアンサンブルコースが中止でしたので、このようにアンサンブルができるというのは、本当に皆さんにとって喜びだったことと思います。一つ！皆さんに注文があるのですが、もっと楽しそうに弾ければ良いなと思いました。私は皆さんの後ろの方で楽しくリズムにのって聴いていましたが、皆さん結構真面目に弾いていらして、（山本祐ノ介先生が怖かったのかしら？）間違ってはいけないとかプレッシャーがあったかもしれませんね。もちろん笑顔も欲しいですし、体でもう少しリズムをとるとか、今回の曲は本当にリズミックな曲が沢山あったので、体で感じて弾けるようになるともっと良いなと思いました。そうすると、聴いている人ももっと楽しく聴けると思います。今日のような演奏は心から音楽を楽しみながら弾いてもらえると良いなと思います。このような機会はなかなかありませんし、年に1度の機会なので、次回はぜひ体で表現するということを課題にしていただき、またご参加いただけたら嬉しく思います。

来年は状況が好転していると期待して、発表会には親御さんだけではなく、お友達も誘っていただけたらと思いますし、私もチェロ・キャンプのことを多くの人に知ってもらいたいと心から思っています。

また来年お会いしましょう。

発表会プログラム

ソロの部

J.C.バッハ：チェロ協奏曲 第1楽章	小3（大阪府）
L.ボエルマン：交響的変奏曲　作品23	小4（東京都）
G.E.ゴルターマン：チェロ協奏曲 第4番 第1楽章	小5（東京都）
L.ボッケリーニ：チェロ協奏曲 第1楽章	小6（東京都）
D.カバレフスキー：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章	小6（東京都）
C.サン=サーンス：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章	中3（和歌山県）
E.ラロ：チェロ協奏曲 第1楽章	中2（大阪府）
C.サン=サーンス：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章	中1（東京都）
C.サン=サーンス：チェロ協奏曲 第1番 第2・3楽章	小6（福岡県）
G.カサド：無伴奏チェロ組曲より 第1・2楽章	中1（神奈川県）
A.ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 第1楽章	中2（神奈川県）

アンサンブルの部

1. ベートーヴェン：Tick Tock
   オッフェンバック：“チェロのためのデュオ”より
   ビギナーズ・アンサンブルコース
   小1（東京都1名）、小2（東京都2名・埼玉県1名）、小3（東京都2名）
2. ハイドン：ディヴェルティメント第1、4楽章
   アメリカ民謡：キャベッジダウン
   アドバンスト・アンサンブルコース
   小3（東京都2名）、小4（長野県1名・京都府1名）、小5（東京都1名・神奈川県2名）、小6（東京都3名・千葉県1名・鹿児島県1名）、中1（東京都2名・山梨県1名）
3. コレット：フェニックス第1楽章
   合同（ソロ・アドバンスト）アンサンブル
4. フランス民謡（トラディショナル）
   全コース合同アンサンブル

- 音の響きや音色のことについて教えて頂きました。音を大きく出したいと思い弓に力を入れてしまい、結果的に遠くに届いてなかったので、その点が良くなかったなと思います。弓の返しやビブラートについてはすぐに習得できないのでこれからも練習していきます。
- グループレッスンはあまり受けたことがなかったのですが、自分のパートを弾きながら、別のパートの演奏を聴くことも大事だという事が分かりました。
- 本番はちゃんと皆と息を合わせて弾くことができた。楽しく弾くことができた。
- アンサンブルで弾くのは二回目だったのであまり良く分かっていなかったから、とても勉強になりました。これからももっとアンサンブルで弾きたいです。

保護者さまより

- 普段客席から見ているだけだった先生方と間近でお話できる機会はとても貴重です。子どもにもとても暖かいお言葉をかけていただき、子どもながらに何か心に響くものがあったようです。今後の練習の励みになります。

Master Class
10月

Alain Meunier

アラン・ムニエ
公開マスタークラス

Photo by 池上 直哉

アラン・ムニエ Profile
イタリア・シエナのキジアーナ音楽院で研鑽を積む。卒業後、同音楽院で教鞭をとりながら、室内楽奏者として世界各地で演奏会や音楽祭に参加。また、ソリストとしても世界の第一線で活躍を続ける。

開催日：2022年10月25日（火）19:00開講
会場：サントリーホール　ブルーローズ（東京都港区）
講師：アラン・ムニエ　通訳：中木 健二
受講生： 2名　伴奏者：2名
来場者数：会員47名、非会員35名、関係者5名

S-138 西田 翔

ピアノ：諸田 由里子

フランク：ヴァイオリンソナタ イ長調 FWV8 第3、第4楽章

このたびは、ブルーローズで、アラン・ムニエ先生のマスタークラスを受講させて頂き、誠にありがとうございました。チェロ協会の会員の皆様やチェロを学んでいる学生達の前で演奏することは、とても身が引き締まり、緊張しました。しかし、皆様の温かい視線や演奏後の拍手に安堵し、落ち着いてレッスンを受けることができましたこと、とても感謝しております。

今回は、フランクのヴァイオリンソナタの第３・第４楽章を選曲し、受講させていただきました。ムニエ先生からは、フランス音楽で大切なことは、感傷的になりすぎないこと、テンポを守ること、シンプルなほうがより迫力が伝わるということ３点を、教えていただきました。この曲はピアノとの掛け合いも多く、ピアノがとても重要な役割を果たしているので、ピアノを弾いてくださった諸田先生も一緒にムニエ先生のご指導に合わせてくださり、演奏しながらムニエ先生の仰ることが身体で感じられるレッスンになりました。また、途中で先生が、「ここはこんな感じで音を出して」というようにチェロを弾いてくださった時、その１音１音が、非常に艶やかな音色で、私の心に響き、感動しました。先生の弾き方を真似して出した１音が、自分でも驚くような音だった瞬間があり、あの時の音は忘れないようにしようと思っています。今回レッスンを受け、いつかこの曲を全楽章弾きたい、その時は今日学んだことを元に、ピアニストと曲作りをしたいと思ったほど、よりこの曲が好きになりました。

ムニエ先生がくださったお言葉は、フランクに限らず、フランスの曲を演奏するときの重要なポイントであり、今後の音楽の勉強に役立つアドバイスでした。

最後になりましたが、わかりやすく通訳をしてくださり、演奏中は客席の方から聴いてくださった中木先生にもとても感謝しています。そして、このような貴重なレッスンを開催してくださった日本チェロ協会様、本当にありがとうございました。これからも精一杯、精進を続けて参ります。

S-251 丸山 悦未子

ピアノ：北端 祥人

ハイドン：チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 Hob.VIIb-2　第1楽章

この度は、アラン・ムニエ先生のマスタークラスを受講させて頂き、誠にありがとうございました。私はこのようなマスタークラスを受講するのが初めてだったため、心待ちにしており、当日は先生やスタッフの方々の温かさによって緊張もほぐれ、幸せな気持ちでレッスンを受けることができました。

今回、ハイドンの協奏曲ニ長調第１楽章を受講曲に選びました。古典派音楽を演奏する時の表情や性格の付け方に難しさを感じていましたが、ムニエ先生が「風が吹くように」「鳥が飛んでいるように」「サムライのように」と例えで下さり、とてもイメージを抱きやすくなりました。ハイドン特有の遊び心が込められた部分の楽しみ方なども教えて頂いたことで、この曲との向き合い方がより明確になりました。

レッスン中、弾くことに夢中になりすぎていた時、「私たちには２人の先生がいます。１人目は右耳、２人目は左耳です。その２人を起こしてください！」とユーモアを交えて仰ってくださり、自分の演奏を客観視することの大切さを学びました。

また、技術的なことばかりを考え、平坦な演奏をしてしまいがちだった私に、先生が「美しいことをする喜びをそのまま表現すればいい」とアドバイスして下さったことが印象に残っています。チェロを始めた頃の純粋な〈喜び〉を今後も忘れることなく大切にし、チェロを奏で続けたいと思います。

今回のレッスンで、自分の課題を沢山見つけることができました。この機会を活かしてより魅力的な演奏ができるよう頑張りたいと思います。

最後になりますが、このような素晴らしいマスタークラスを開催し、参加する機会をくださった日本チェロ協会の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

参加者数
講師：1名／クリニック受講生：2名／アンサンブル参加者：28名／聴講：12名
合計45名（会員：33名・非会員：8名・スタッフ：4名）

Cello Salon
チェロ・サロン 開催報告

2022年10月1日(土)に、サントリーホールリハーサル室で、中木健二さんの主宰によるチェロ・サロンが開催されました。中木さんは、東京藝術大学を経て2003年に渡仏、パリ国立高等音楽院、スイス・ベルン芸術大学ソリスト・ディプロマコースの両校を首席で卒業され、現在は紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー、東京藝術大学音楽学部の准教授でいらっしゃいます。

前半は、2名の方が約15分ずつのチェロ・クリニックを受講。熱尾尚美さんは、フォーレの《ロマンス》、非会員の柴垣さんはシューベルトの《アルペジオーネ・ソナタ》を課題曲にされました。中木先生の「演奏をしていて〝難しい〟と感じた時、技術的に解決するのではなく音楽的なイメージを持つことで演奏を補うことも一つの手である」という言葉は、聴講者の心に残っていることと思います。受講生の演奏法における悩みに丁寧に沿いながら、短い時間の中で大変的確に分かりやすくご指導くださいました。

休憩を挟み、後半は、アンサンブル形態にて、ダヴィドフの《賛歌》、シャブリエの《ハバネラ》をご指導いただきました。パート同士、音の対話を大切にすることや各フレーズでどのパートがリードするのか、演奏技法や強弱記号をどのように解釈するか等、パートの役割や楽譜を読み解く上でのヒントを教えていただきました。また、中木先生が初めてオーケストラ(主席奏者)でカルメンを演奏された時の、楽譜には指示のない「聴衆が求めているテンポがある」という逸話も大変興味深いものでした。

改めて、貴重なお話が沢山詰まったサロンの開催を、誠にありがとうございました。

ワンポイントクリニックを受講して

R-366 熱尾 尚美

チェロ・サロンで中木さんにレッスン受けられる！と言うことで、中木さんといえばフランスもの、フランスの曲を教わってみたい……！と、昔弾いた曲の中からごそごそ漁ってきたのが今回のフォーレ作曲《ロマンス》Op.69でした。練習すればするほどに、昔なぜこの曲を弾こうと思ったのだろう？と軽く絶望感を感じつつ、新しい発見もありました。

当日は緊張で身体が硬直するのがよくわかりました。緊張のコントロールも今後の課題だなと思います。でも中木さんがさらりとピアノ分を弾いてくださると、ふっと自分の中にピアノの伴奏が戻ってくる感じがしました。その次の瞬間にまた硬直して間違える……。本当に悔やまれるところです。とはいえ、いただいたアドバイスはとても貴重で、この曲ともっと仲良くなりたい、もっと自分なりの表現がしたい、と、とても前向きになれました。

チェロ協会のみなさま、中木さん、改めてありがとうございました！

奏でる 輝く 語り合う

2023年2月4日(土)・5日(日)於 サントリーホール ブルーローズ

チェロの日 Promotion

R-004 藤森 亮一

今回、チェロの日に出演するのは初めて(他のイベントはありますが)ですので、とても楽しみにしています。実はヴィオラの須田さんとの共演が決まるまでは一苦労がありまして、当初、高校からの同級生でデュオの演奏会をよく一緒に行っているコントラバスの吉田さんに声をかけたのですが、生憎都合が合わず・・・NHK交響楽団の仲間に声をかけるも断られ続けてしまいました。運よく、これまでも室内楽オーケストラ(30名編成)で共演のある須田さんにお引き受けいただくことができました。

チェロと仲良くなるコンサートの企画内容をお聴きしましたところ、よく耳にするチェロの演奏というよりは少し珍しい楽器(編成)との共演が良いとのことでしたので、共演者選びも選曲もひとひねりが必要でした。演奏に選んだ曲は、各楽器のソロがあり、とても聴きやすい、また面白い曲を揃えましたので、お楽しみいただけると思います。

いつもやらないかたちでの演奏に今からワクワクしておりますので、当日も楽しみたいと思っています。

©Ayane Shindo

R-632 山澤 慧

この度「チェロの日」で演奏できることを大変光栄に思っております。

ダンサーの仁田晶凱さんとの共演、そして藤森亮一先生との共演！緊張しつつも、楽しみにしております。

仁田さんとは友人作曲家のコンテンポラリーダンス公演で知り合い、いつか共演しようと話していました。演奏曲は新作無伴奏チェロ曲なども検討しましたが、最終的にバッハの《無伴奏チェロ組曲第6番》で共演することにしました。そう決めたのは、あるチェロとの出会いからです。僕がかつてチェロを習っていた藤沢俊樹先生(ウェルナー教則本や、チェロ名曲31選の楽譜で名前をご存知の方も多いかと思います)が今年の10月17日、闘病の末亡くなりました。その1ヶ月ほど前に藤沢先生からお話を頂き、先生が使ってきたチェロを僕が受け継ぐことになりました。優しい音のする楽器で、ふとバッハを弾きたいと思いました。

先生が長年使っていたこのチェロと仲良くなるにはまだ時間がかかりそうですが、コンサート活動を通して、少しずつ仲良くなりたいと思います。

事業委員会より ご挨拶

Hello

この度、事業委員会を新たに設置し、委員を会員の方から公募致しました。従来の実行委員会のメンバー５名とご応募いただいた５名が理事会の決議により委員に選任されました。

R-240 渡邊 亮

この度、担当理事として事業委員会の委員長を仰せつかりました。私は、２００５年にチェロ協会が共催したInternational Cello Congress 2005 in Kobeに裏方として参加したことをきっかけとして、事務局員や実行委員としてチェロ協会の企画・運営に関わらせて頂きました。これまでの経験も踏まえて、チェロ協会の発展やより良い事業運営のお役に微力を尽くしたいと考えています。

事業委員には、会員の皆さんと同じようにバラエティ溢れるメンバーが集って下さいました。私は健康・医療に関する政策や経営に関する教育・研究を生業としており、直接的に芸術・音楽とは関係ありませんが、委員の中には本務として音楽の企画制作や音楽団体の運営に関わってこられた方もいらっしゃいます。初回の委員会では、様々な視点からの意見が交わされましたが、このように多様な背景を持つ委員の皆さんや、理事・評議員の皆さんと力を合わせて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

R-366 熱尾 尚美

子どものころからいろいろな楽器に触れていましたが、チェロを始めたのは誤魔化しようもなく大人になってからです。幼稚園で電子オルガンとベルリラ。以降、ピアノと、小学校の部活でトランペット、アコーディオン、その他いろいろ。中学以降も音楽系でいくのかと思いきや、仮入部時点で水が合わず、なぜかそこから演劇部でした。役者のみならず脚本のアレンジとかもしてました。少年声を出すのが得意です（たぶん）。社会人になってから、ピアノ再開→ヴァイオリン（囓っただけ）、クラリネット（数年）。そこからチェロ一筋です（一筋？？）。

普段はたぶん普通の会社員で、金融系のＩＴ知識がいるところの仕事をしてます。チェロ以外の趣味もそれなりにある普通の人ですが、普通じゃ無いと周りには言われます。

他の委員の皆さまと違い、チェロが上手いわけでも特異な能力があるわけでもありませんが、皆さまとこれから何かできれば良いなと思っています。

R-016 石島 栄一

それまでロックギター少年だった私がチェロを始めたのは、大学に入学した時でした。楽譜が読めなかったので、全ての音に指番号を振ったりして、演奏以上に譜読みで苦労しましたが、慣れというのは恐ろしいもので、いつの間にかへ音だけでなくハ音記号も読めるようになりました。

そんな私が２００４年頃から浄書ソフトで色々な曲をチェロアンサンブルに編曲するようになり、今では３００曲近くになっています。その一部はオンラインで販売しているので、ご興味のある方は一度覗いてみて下さい。（楽譜の宣伝になってしまいました。。。）

また、チェロ協会で演奏するチェロオケの曲も、出版社から「チェロ協会がコピーして、参加者に配って演奏している」というようなクレームを受けないよう、市販されている楽譜も含めて、基本的に全て私が浄書し直して使っています。事業委員の一人として、今後もより良い活動を目指して対応して参りますので、どうぞ宜しくお願いします。

R-334 片山 実

中学生の時にチェロを始め、学生時代はオーケストラやオペラ団体、室内楽団体などで演奏をしていました。最近はプロ・アマ混合の室内楽演奏会を定期的に開催するなど、室内楽活動がメインになりつつあります。

普段は経営者、茶道正教授として学びと刺激にあふれる日々を過ごしています。茶の湯においては、国内外での茶会や講演、国際交流活動、後進の育成などに取り組んできました。伝統文化・芸術を継承し、発展させ、創造していくため、試行錯誤を続けています。

R-164 佐谷 記世

関西生まれ・在住の関西人です。３歳の時に才能教育研究会でチェロをはじめ、その後 日比野忠孝先生に師事しました。

大学オーケストラに入団し、管弦楽や仲間との室内楽を通して、音楽の豊かさと奥深さを再認識しました。大学院卒業後、ザ・フェニックスホール（大阪）に就職、主催公演に携わるなか、アマチュアチェリストでもある上司の誘いで本会に入会。関西チェロサロンで

上司とポッパーのデュオを演奏、堤剛先生にご講評頂けたことは大切な思い出です。

現在は居住地の文化施設の音楽事業に関わり、企画と運営の仕事をしています。一方2005年から、主に阪神間の子供さんが集まり演奏するチェロコンサートを運営。若手チェリストによるゲスト演奏もあり、近隣の方にも気軽にチェロに親しんでいただいています。地元の芦屋交響楽団にも参加しています。

微力ながら委員の一人として加わらせていただき、とても楽しみです。宜しくお願い致します。

杉野 貴代子

チェロとの出会いは、大学のオーケストラでした。心地よい音程に魅了され、卒業後チェロを習うほどでした。

現在は、楽器から離れてしまいましたので、音楽は聞く専門ではありますが、そんな自分でも何か協力できることがあるのではと思っています。微力ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

R-342 田中 渚

10歳の時偶然、林峰男さんのBUNRAKUを聴き、チェロの多様な可能性に驚いて、地元にあった北九州ジュニアオーケストラに入りチェロを始めました。高校時代にコンサートホールで初めてソロを弾き「こんな空間が作りたい！」と一路、建築家を目指します。

大学で建築学、大学院で建築音響学を学んだ後、就職。コンサートホール、レコーディングスタジオの設計を行いました。2015年、町工場の跡地を改装して音楽スタジオを作り、一級建築士事務所を設立。音楽に関わる空間ばかり設計しています。

音楽スタジオ経営の試行からコンサート企画、地域での音楽活動を積極的に行っています。最近は筋ジストロフィーの青年と仲間で団体を作り、遠隔ロボットを使って寝たきりでも遠隔地から一緒に演奏する活動に取り組んでいます。

林 美樹

ウィーン・フィル首席奏者のタマーシュ・ヴァルガさんの日本でのマネージャーだったとき、チェロ協会に、マスタークラスを売り込んだことがきっかけで、お手伝いするようになりました。元ベルリン・フィル首席の故ベトヒャー先生にも、会員になって頂きました。草津温泉での音楽祭に長年関わっていましたが、現在は、音楽事務所を退職し、ローマと日本の大学院でカトリック神学を勉強しています。すっかり業界から離れましたが、チェロ協会は大好きで辞められません。特に、ジュニアチェロキャンプが好きです！

R-641 平井 康文

九州大学理学部数学科卒業。インターネット・サービス企業でCIOとしてシステム開発部隊を統括する傍ら、40年以上にわたり趣味でオーケストラや室内楽でチェロを演奏。これまで高松交響楽団、大坂市民管弦楽団、米国コネティカット州ノーウォーク交響楽団、俊友会管弦楽団などに所属。チェロを本田実氏(九響)、奈切敏郎氏(日フィル)、金木博幸氏(東フィル)に師事。2021年全日本弦楽コンクール・アマチュア部門入賞。年間100日を超える海外出張の際は、時間があれば米国、ヨーロッパのコンサートホールに足を運ぶ。現在、公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団理事、軽井沢国際音楽祭実行委員長を務める。夢は4歳の孫のヴァイオリンと共演すること。

R-001 三木 隆二郎

チェロは小4の時に学校の器楽クラブで始めました。その後、高校・大学、社会人になって千葉室内合奏団、米国留学中にペンシルベニア大学オケ、英国勤務中に弦楽合奏団、光が丘管弦楽団でアマチュアとして演奏してきました。

勤務先では主として資産運用業務をしてきましたが、経営企画部署に在籍していた2001年に第一生命ホール再興プロジェクト責任者になり、晴海に家族で引っ越してNPOトリトン・アーツ・ネットワークのコミュニティ活動担当理事として教育・福祉・医療施設へのアウトリーチを年間30回ほど企画運営しました。

2011年からは大森室内楽愛好会を主宰して東京藝大楽理科の学生をメンバーに医療・福祉施設へのアウトリーチの企画運営演奏をしています。2017年からは愛知県立芸術大学病院アウトリーチプロジェクト・スーパーバイザーとして、病院で演奏するアートマネジメントを教えています。

R-279 芳山 朋史

この度監事と兼務で事業委員会に加えて戴きました芳山朋史です。

チェロは高校のクラブで始め、大学のオーケストラクラブ時代にチェロで集まる事やチェロアンサンブルの楽しみを知り、どっぷりとチェロ沼にハマってしまい、今までずっと続けています。

これまでも実行委員としてチェロの日やジュニアチェロキャンプ、アウトリーチ等でお手伝いをしてきましたので、それらの経験を活かし更に素敵な企画を創っていけるように進めていきたいです。

MEMBERS VOICE

R-121 菅田 克彦 さん

学生時代にチェロを始めて47年、その間首都圏のアマオケを中心に地方のオケへの賛助や海外公演にも幾度となく参加してきましたが、コロナ禍で状況は一変。以前は年間30～40回の演奏会に参加していたものが2020年春以降はほぼゼロに。最近ようやく以前に近い活動が出来るようになりましたが、海外遠征だけはコロナに加えてウクライナ問題の影響が大きく、さらに現下の円安も加わり再開には依然ハードルが高い状況です。

1997年の暮れ頃、新たに設立する日本チェロ協会の会員を募集しているという話を聞き、迷っているうちに知人が次々に入会し私も慌てて入会した記憶があります。2000年夏には山中湖で総会を兼ねたサマーキャンプが開催され、堤会長、倉田先生、山崎先生、河野先生など先生方とアマチュア奏者十数名が寝食を共にし、夜中までチェロ談義に花を咲かせたことは貴重な思い出です。その後2002年から2003年までは協会の監事も務めさせて頂きました。現在は会員数も飛躍的に増え、「チェロの日」等の大規模な催しが行われるようになった事には隔世の感があります。今後も協会の催しには可能な限り参加して行きたいと思います。

事務局からのお知らせ

日本チェロ協会は1997年に任意団体として発足してから、今年で25周年を迎えました。
20周年の年（2017年）に法人化、一般財団法人として歩み始め、早くも5年という月日が流れました。
当協会が主な事業として行っているチェロ・サロン、マスタークラス、ジュニア・チェロ・キャンプ、チェロの日を絶やすことなく現在まで続けて行えていることを大変嬉しく思っております。
これも一重に会員の皆さまのお力添えがあってこそのこと、改めて御礼を申し上げます。
この機会に、会員の皆さまにご利用いただける特典（いずれも会費以外に費用等はかかりません）について改めてご案内いたします。ぜひご活用くださいませ。

出演情報のHP掲載

出演するコンサート情報を当協会のホームページへ掲載します。以下のQRコードからご投稿が可能です。

https://www.cello.or.jp/reception/

出演情報Facebook配信

左記のコンサート情報をFacebookにてご案内しております。ご希望の方は事務（office@cello.or.jp）もしくはMessengerにてメッセージをお送りください。

日本チェロ協会

@JapanCelloSociety

フライヤーDM便

出演するコンサートのチラシをDM便にて全会員宛てに送付します。年度内に最大3回発送するDM便に同封します。（4月、12月、その他：不定期）
公演日に合わせて同封差し上げますので、発送時期については事前にご確認ください。

チェリスト検索へ掲載

当協会ホームページにてチェリストごを紹介しています。(レッスン情報などもOK) 以下のQRコードからご投稿が可能です。

※プロ、アマチュアは問いません。

また、このような情報が欲しい、こんなネットワークがあれば嬉しい、というご要望等がございましたら、ぜひご意見をお寄せください。（メールアドレス：office@cello.or.jp）事業委員会で検討し、理事会に諮ります。

2022年度主催イベントのご案内

■第12回チェロの日

日　程　2023年2月4日（土）、5日（日）14：30開演（両日共に）
会　場　サントリーホールブルーローズ
出演者　藤森亮一、山澤慧、（4日）
　　井上帆乃香、藤原寛太、山本祐ノ介、チェロ・オーケストラ（5日）
チケット取り扱い：サントリーホールチケットセンター：0570-55-0017
※会員席はサントリーホールチケットセンター窓口およびTELのみで販売します

■チェロ・サロン

講師　山本裕康
日程（2023年3月または4月）・会場　未定

■掲載写真について：
各イベントの集合写真は、撮影直前にマスクを外し撮影しております。

編集後記

街路樹も葉を落とし、すっかり冬景色に変わりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナ感染者が減ったわけではないですが、今年度はウィズコロナとして、例年通りのイベントの開催にやっと近づくことが出来ました。9月のジュニア・チェロ・キャンプはついにアンサンブルも含めた2日間での開催、10月には来日が可能となった、アラン・ムニエ先生のマスタークラスを開催することが出来ました。集まった皆様の笑顔をみると本当に嬉しく、開催できて本当に良かったです。大人ももちろんですが、成長の早い子供たちは特に一年一年が貴重な時間だと思います。少しでも早く、マスクもなくなったり、飲食なども制限なく楽しめたりと、いつも通りの生活を送れることを祈るばかりです。

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

チェリストを探す　公演情報

一般財団法人 日本チェロ協会（JCS NEWS）第60号　2022年12月19日発行

発　行　一般財団法人 日本チェロ協会
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 私書箱509号
電話 03-3505-1991　FAX 03-3582-1310　E-mail office@cello.or.jp

発行人　堤 剛
編　集　日本チェロ協会事務局
編集協力　株式会社アイデアリズム